

相撲甚句

NHK名古屋文化センター「相撲甚句を唄う会」

浅井康洋

一、土俵のヤ

土俵のヤ 砂付け男をみがき
錦をや飾りて 母待つ故郷へ

二、鶴と亀

鶴さん亀さんにプロポーズ 亀さんすげなく断わった
そこで鶴さん申すには 首の長いのが嫌なのか
口の長いのが嫌なのか 足の長いのが嫌なのか
そこで亀さん言うことにや 首の長いのは嫌じやない
口の長いのも嫌じやない 足の長いのも嫌じやない
世のことわざにもある通り 鶴は千年亀万年
もしもそなたが死んだなら 九千年ものわしや後家よ
それが悲しゆてヨーホホイ アー添わりやせぬよ
アーお前百までわしやいつまでも

頭ツルツル入れ歯でカメカメ

三、熟年夫婦の面白相撲甚句

熟年夫婦を甚句に詠めばヨー
先に寝るぞと声かけりや 安らかにねと返す妻
いびきがやんで気にかかる ただの寝坊で脈とられ
早起き自慢のお父さん 寝るまで何の用もなく
コメダで昼までモーニング 今日もあの人来てないね
病院仲間が気にかかる 風呂から出たらなあお前
はいてるパンツ俺のだが 翌朝妻の一言は
あなたズボンのチャック全開よ
みつともないことありやしな
あんなこんなで日が暮れて 今来たこの道戻れない
年に不足はないけれど お迎え来るにはヨーホホイ
アーまだ早いヨ

人生を百まで生きよと言われても

知力に体力、貯金なく

増える薬に薄れる記憶

お互いにボケかどぼけか気がつかず

多病息災楽しんで

ネンネンコロリとならぬ様

ピンピンコロリでハイさいなら

